

事務連絡
2023年9月12日

各支部長 様

県職労本部

本庁舎の再編について（9月補正予算）

連日の取り組みに敬意を表します。

件名のことについて、9月12日別添の補正予算の発表にともない、元町再開発課および管財課と本部・現業評議会・県庁支部と協議しましたので、お知らせします。

このことで何かありましたら本部まで連絡してください。

記

1. 補正予算について

1号館・2号館・別館・西館が耐震性不足のため、部局を3号館・生田庁舎・公館・職員会館に移し、解体するための予算を計上した。本年度は移転に向けた3号館等の改修にかかる設計費と1号館等の解体にかかる設計費等の計上である。

スケジュールは別添資料のとおり、今年度から設計を実施し、来年度下期から改修工事、R7年度の退去、R8年度から解体工事を始める。

なお、3号館も課室が入るための改修を実施する。そのため一旦、教育委員会は神戸市水道局旧東部センターに移転。人事委員会、監査委、労働委は総合衛生学院中山手分校に移転する。なお電話交換室は移転しない。

議会棟については議会と調整中である。

2. やりとり

組合：今回の補正予算であるが、主には設計ということであるが、そもそも未だ生田庁舎で検証中であり、全体の方向性が決まらないまま移転先の改修設計は如何なものか。

また、今回4割出勤での改修と思われるが、そもそも我々は4割出勤で業務が廻るとは思っていない。

当局：言われるとおり全体の方針が出ないまま移転先の改修設計をすることについては、説明不足ではあるが、耐震性不足の庁舎について対応するためにも、まず移転する庁舎の改修の設計を始めたい。検証が終了したのちの全体再編については丁寧に説明協議したい。

組合：設計を始めるためには、部局の行き先についても明らかになってくる。現業評議会はあり方検討で話し合いを継続しているし、事前協議制である。今後丁寧に協議を進めてもらいたい。

当局：現業評議会の皆様とは情報交換も含め今後丁寧に対応したい。

組合：今生田庁舎で検証中であるが、厳しい意見が多いと聞いている。現状はいかがか。

当局：確かに4割出勤が困難との意見も聞いているが、懸念していた土木部が数字的には、生田庁舎や在宅で廻ったという結果になっている。

組合：それは忙しいため、わざわざ生田に行ったり、在宅したりせず黙って1号館で仕事していた結果である。また検証を拒否した課もある。そもそも検証が強制的であり、現場優先でなかった証左である。このことは検証するときしっかりと含めてもらいたい。

当局：検証するときの意見として聞かせていただく。

組合：福利厚生や会議室確保については、申し入れ書にも記載している。今後丁寧な協議をお願いする。

当局：わかりました。

組合：移転のためのペーパーレスについてだが、何回も言うが、毎日の業務をこなすのが精一杯で、これからは電子決裁や、資料の電子での保存を努力しているが、過去の文書の仕分け、電子化ははっきり言って困難である。

当局：今年度の予算で各部にOCR（識字）機能付きのスキヤナー専用機を配置する予定であり、公文書保存用の大型倉庫についても今後予算化する。

組合：現場では、ペーパーレスを進める事しか指導がない。大型倉庫を設置するならその旨丁寧な文書・資料管理について指示すべきである。

当局：あくまで基本は、ペーパーレスを進めながらではあるが、倉庫を確保できる見通しが立ったので、今後は部局と協議をしたい。

組合：在宅についても相変わらず通信について不具合がある旨意見がある。また携帯電話について、やはり自分の電話の使用に抵抗が大きい。いくら業務用の通信料が当局持ちや、クレマー相手にかけるとき番号非通知でかけることが可能であっても、やはり在宅業務用の電話を支給すべきではないのか。

当局：検討しているが、まだ予算化していない。まずモバイルパソコンの配備を予定している。

組合：ペーパーレスを進めるために本庁にディスプレイを配備したはずである。モバイルパソコンでは、業務効率は落ちる。このことは今後も協議していく。

また、記者発表資料の中で県民会館の耐震診断があるが、耐震性が不足しておれば、建て直すのか。

当局：診断結果を見てからの判断になる。結果が出ればすぐにお知らせする。

組合：いずれにせよ、全体が示されないままではあるが、今後も情報共有や協議をお願いしたい。

当局：わかりました。説明協議は丁寧に進めたい。